

第6章

質問調査結果から見られる傾向

児童生徒質問調査の結果について、「分析支援プログラム」を使って、全県の傾向を分析しました。

各学校においても、「分析支援プログラム」の活用や結果データのグラフ化などをして、自校の分析結果を全県の傾向と比較したり、自校の研究の成果を検証したりして各校の取組の改善につなげてください。

1「自己有用感」と「チャレンジ精神」分析と傾向

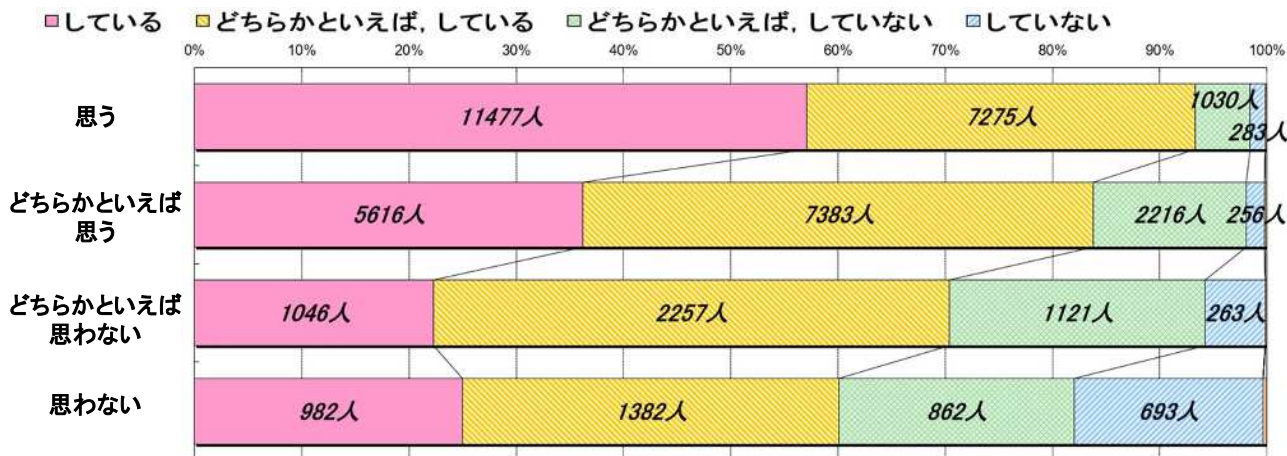
【概要】
 「自分にはよいところがある」と考えている児童生徒ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」「どちらかといえば、している」と肯定的に回答する傾向が見られる。
 特に、「思う」と回答している児童生徒の8割以上は、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」という質問に対して「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に回答している。

- 【先生方へのメッセージ】**
- 児童生徒は自分の努力やよさを認められたり、他者に対しての行動をほめられたりすることによって、「自己有用感」を高めていきます。
 - 一人一人の児童生徒にそれぞれのよいところを気付かせるとともに、自信をもたせる言葉かけを、継続的に行いましょう。
 - 児童生徒が挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次の活動につながる意識をもたせることが大切です。

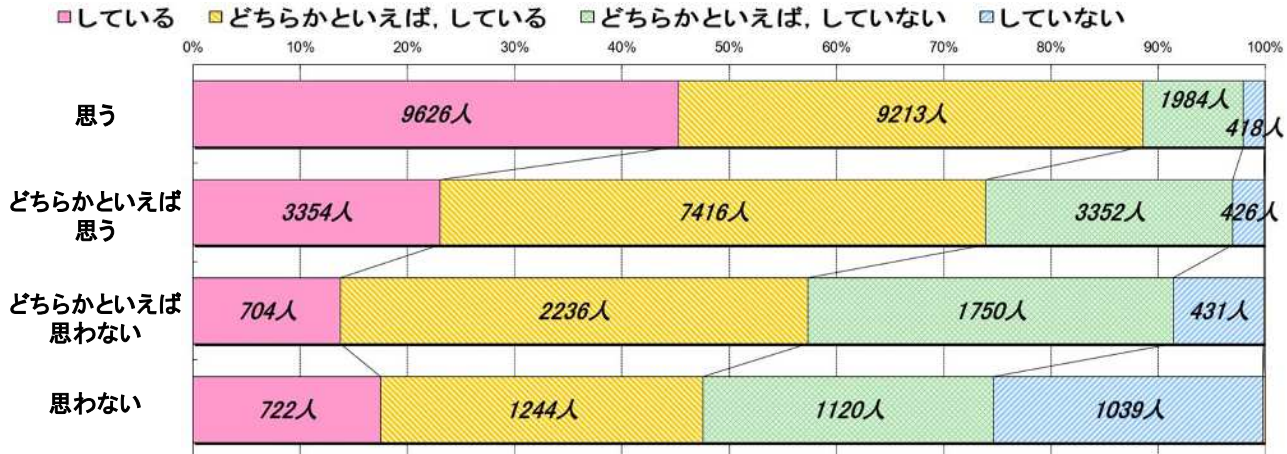
横軸カテゴリー⇒

縦軸カテゴリー⇒

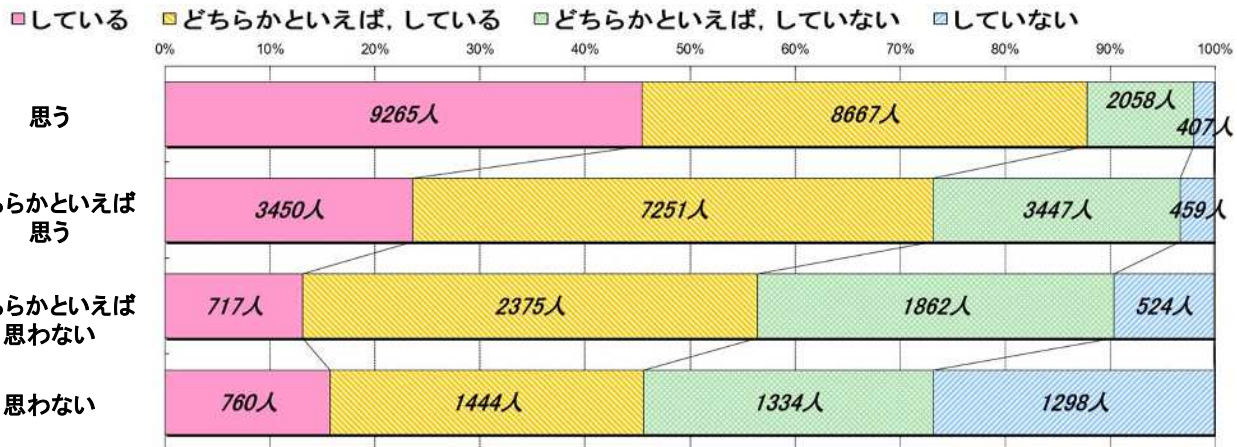
小学校4年



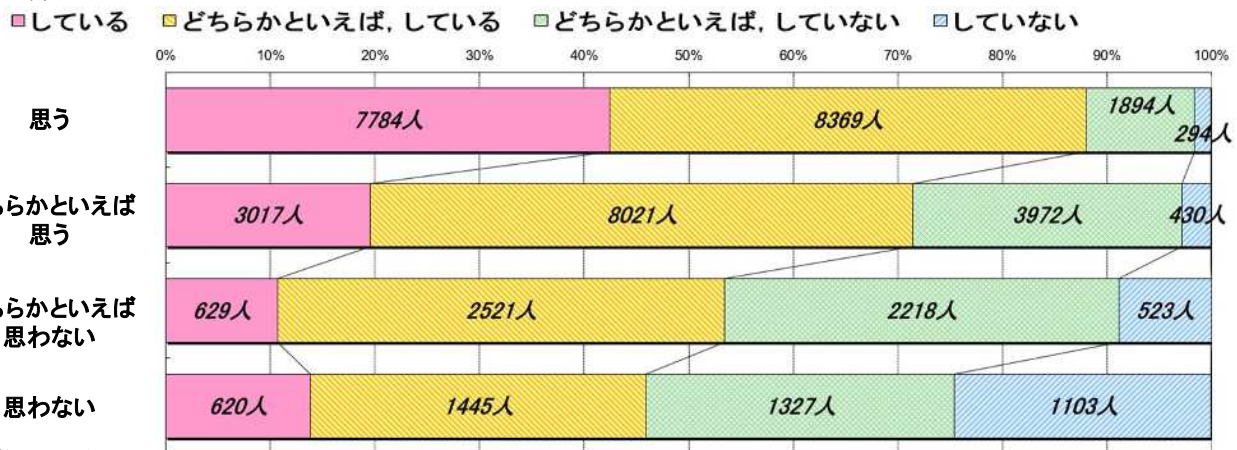
小学校5年



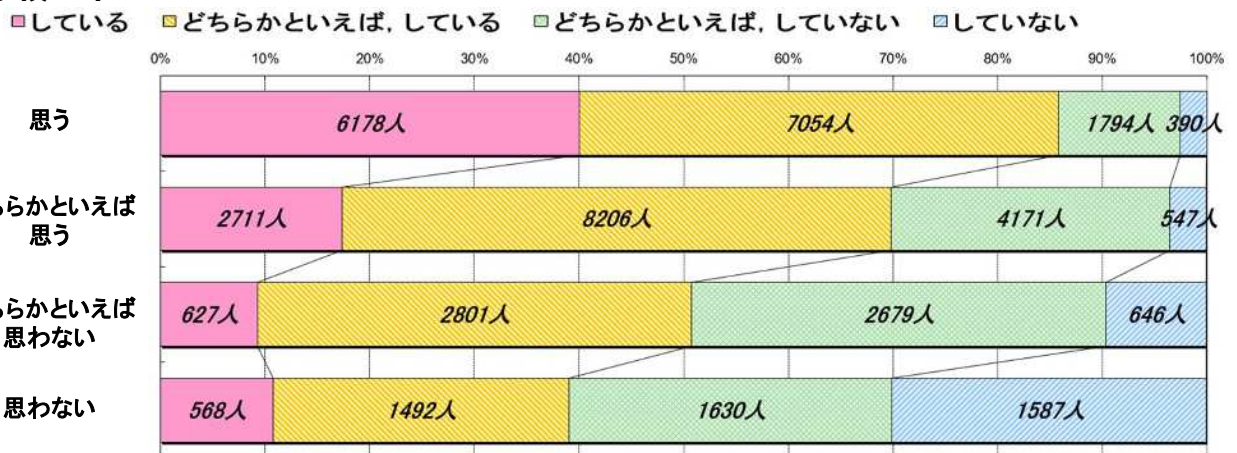
小学校6年



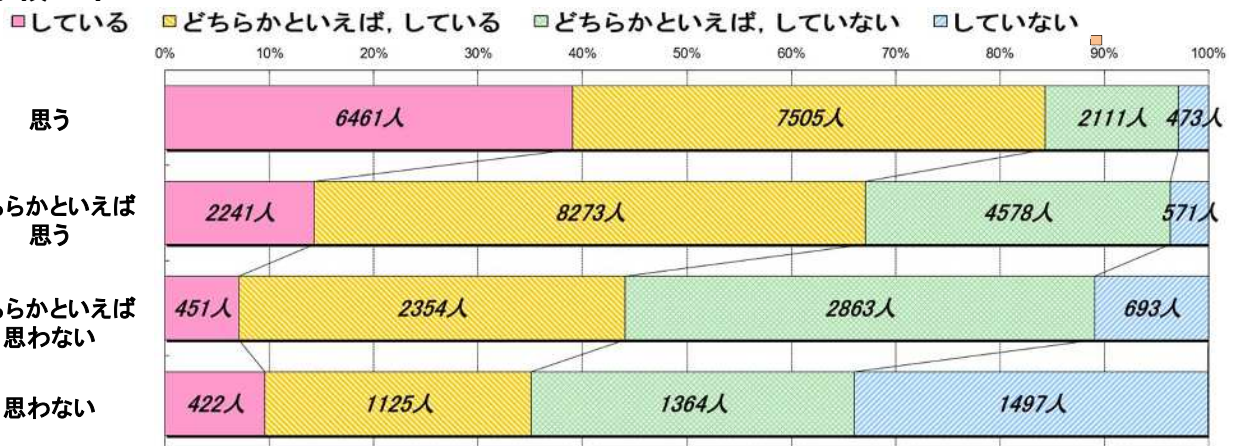
中学校1年



中学校2年



中学校3年



2 「自己有用感」と「各教科の学力」分析と傾向

【概要】

「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して「思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒ほど学力が高い傾向が「国語」「算数・数学」「英語」の全てに共通して見られる。

また、肯定的な回答をした児童生徒は、学年が上がるにつれて少しずつ減少している。

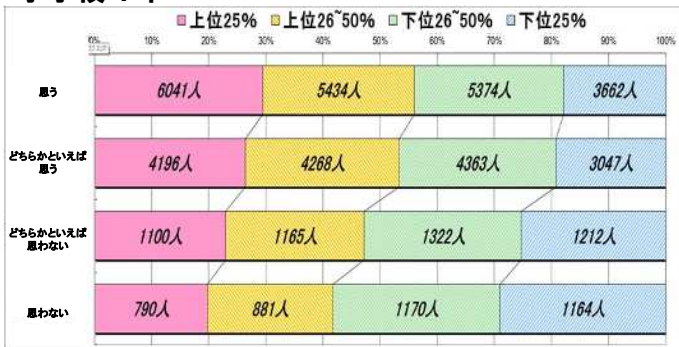
【先生方へのメッセージ】

- 児童生徒が「自分にはよいところがある」と思うためには、学校生活の中でのプラスの声かけ（自分の役割を与え、達成したことを認める等）が何より大切です。授業や生活の中での声掛けの質を高めましょう。
- 児童生徒の生活行動や学習活動の中で「よい点」を教師が積極的に見つけ、フィードバックしましょう。県学調の伸びや質問調査の結果も活用しましょう。
- 1年間の学力の伸びや伸びにつながったがんばりを認め、ほめるとともに、児童生徒や保護者、学年職員などで児童生徒の学力の伸びの状況を共有しましょう。

横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

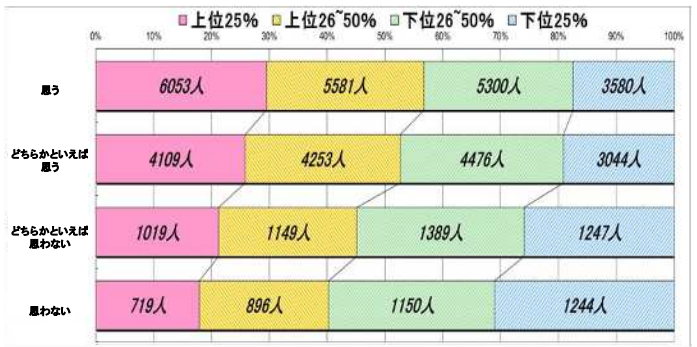
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

小学校4年

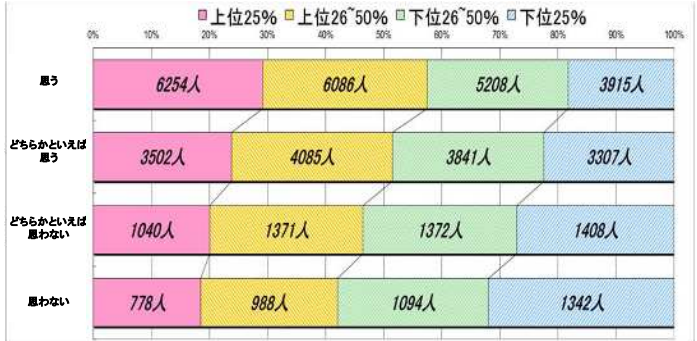
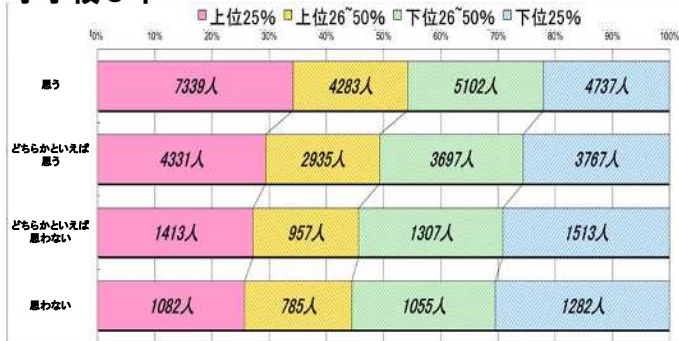


横軸カテゴリ⇒ 学力階層_算数

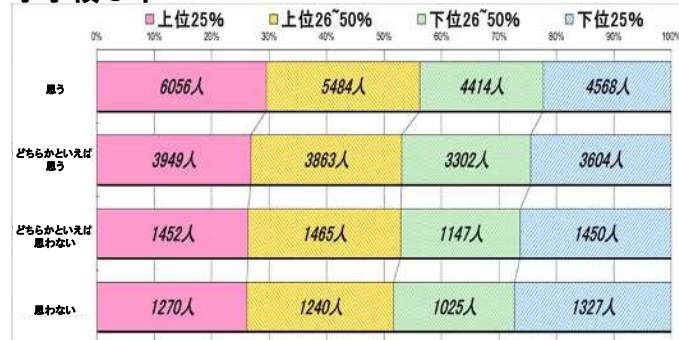
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか



小学校5年



小学校6年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

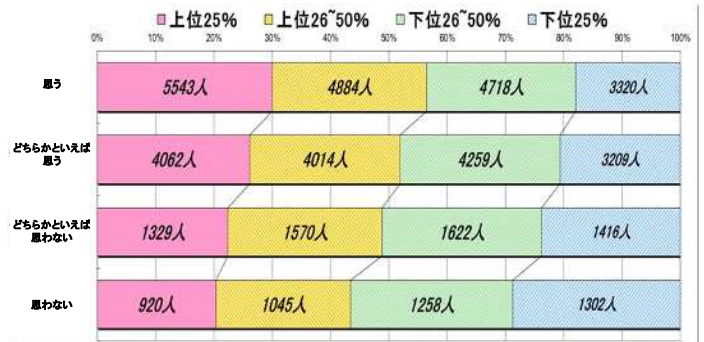
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

中学校 1年

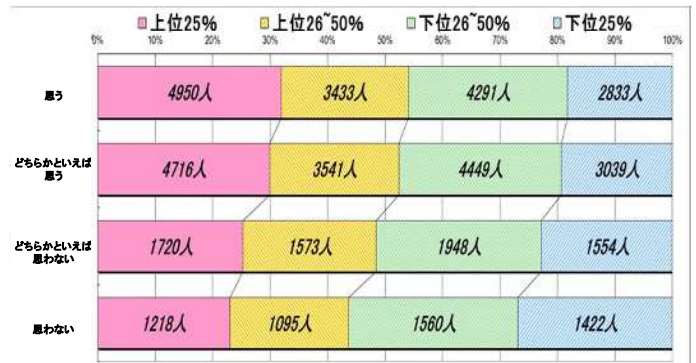


横軸カテゴリ⇒ 学力階層_数学

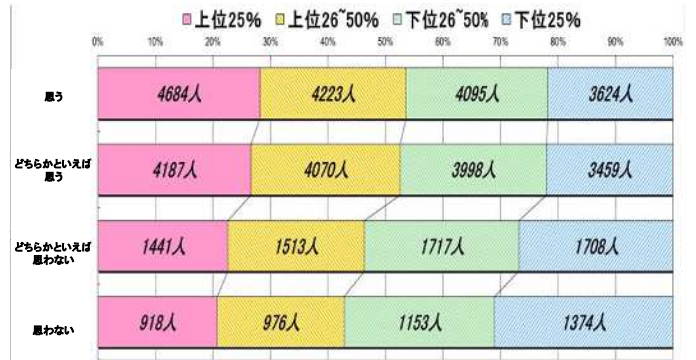
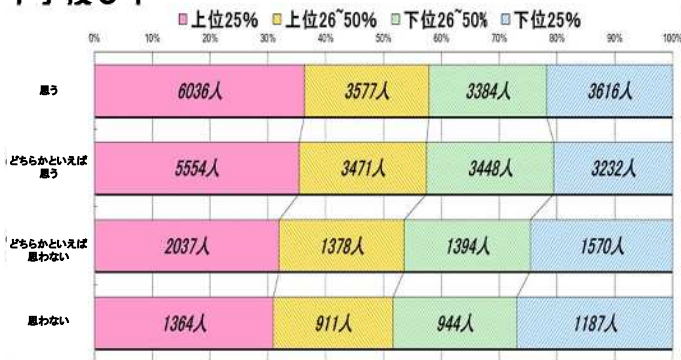
縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか



中学校 2年



中学校 3年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_英語

縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

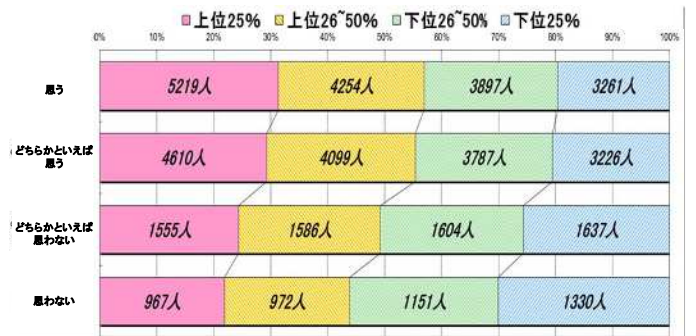
中学校 2年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_英語

縦軸カテゴリ⇒ 自分には、よいところがあると思いますか

中学校 3年



3「学級の雰囲気」と「学習の様子」分析と傾向

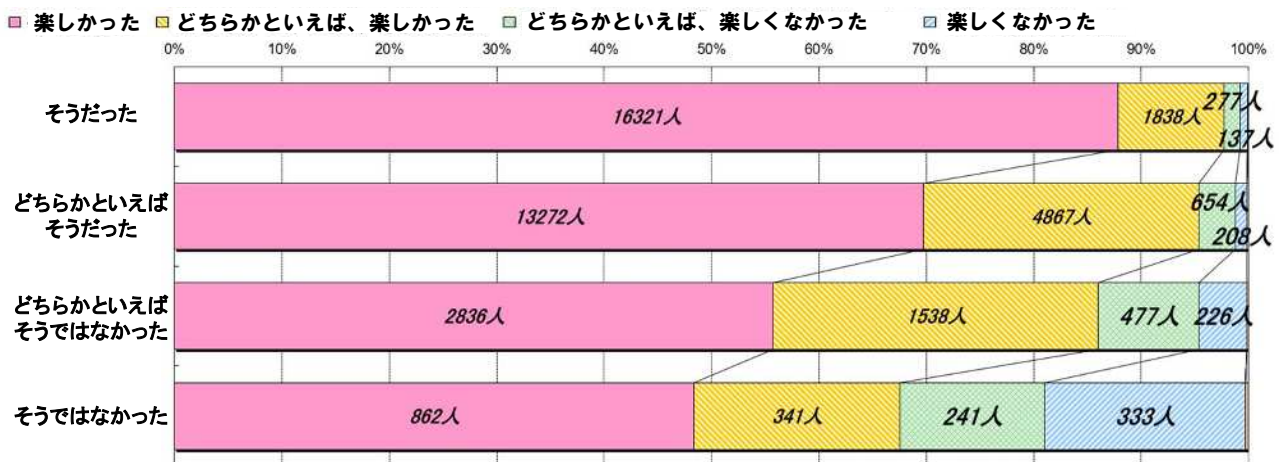
【概要】
 「学級は落ち着いて学習する様子であった」と回答する児童生徒ほど、「学級での生活が楽しかった」と捉えている傾向がある。
 この傾向は調査を行った全ての学年で見られ、「落ち着いて学習できる学級の雰囲気」が、学校生活の満足度に大きな影響を与えていることが改めて明らかになった。

【先生方へのメッセージ】

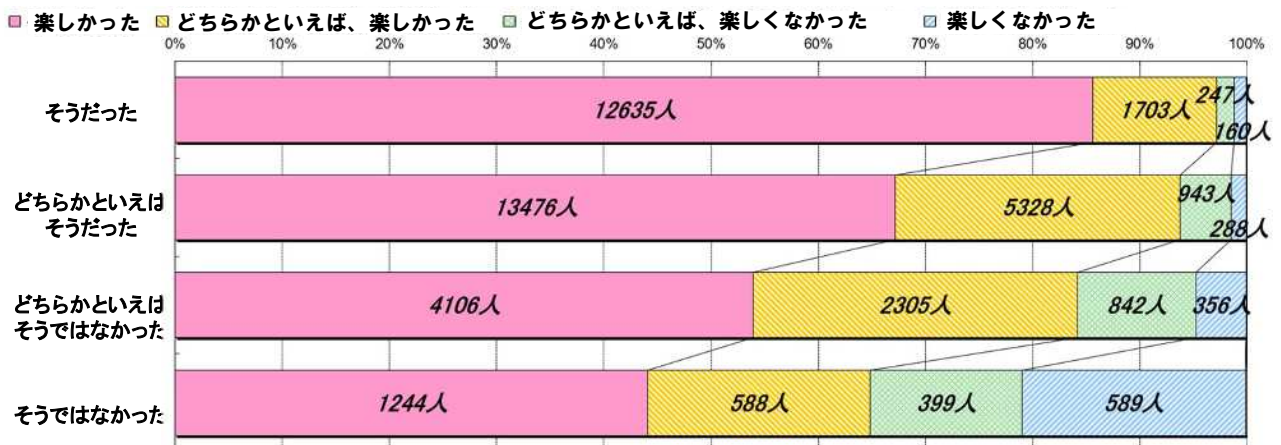
- 自分の居場所があり安心して生活できる学級は、児童生徒の心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気を醸成します。
- 落ち着いた学級づくりは、学力向上にも効果があります。児童生徒が「楽しい」と感じる学級づくりに日々取り組みましょう。その際、学校の「よい取組」を共有することや、学力の伸びが見られた効果的な取組をまとめた、県学調の「活用リーフレット」などを参考にしましょう。

縦軸カテゴリ⇒ (前学年)学級は落ち着いて学習する様子でしたか
 横軸カテゴリ⇒ (前学年)学級での生活は楽しかったですか

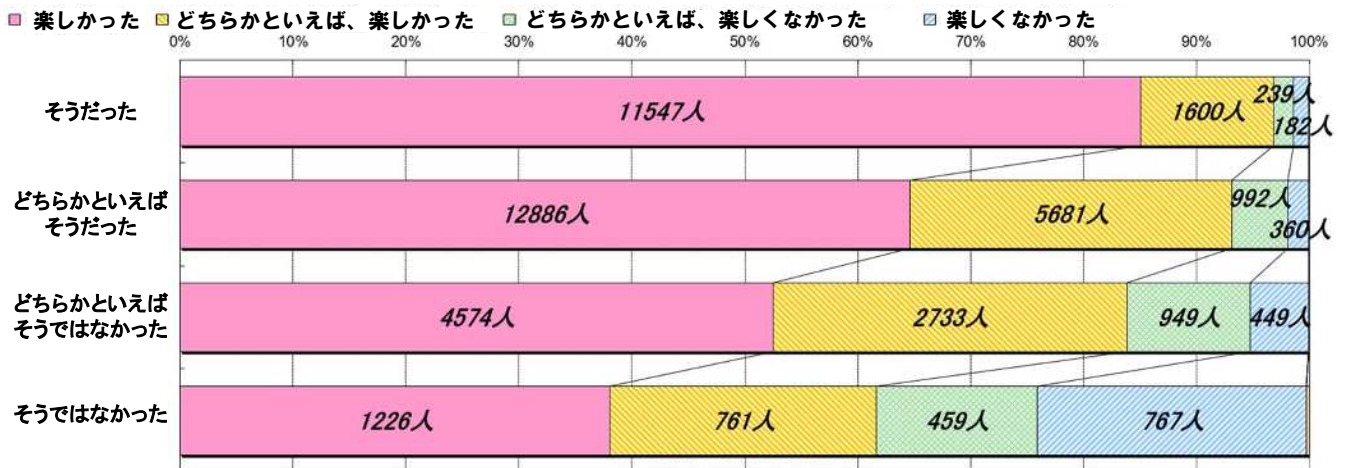
小学校4年



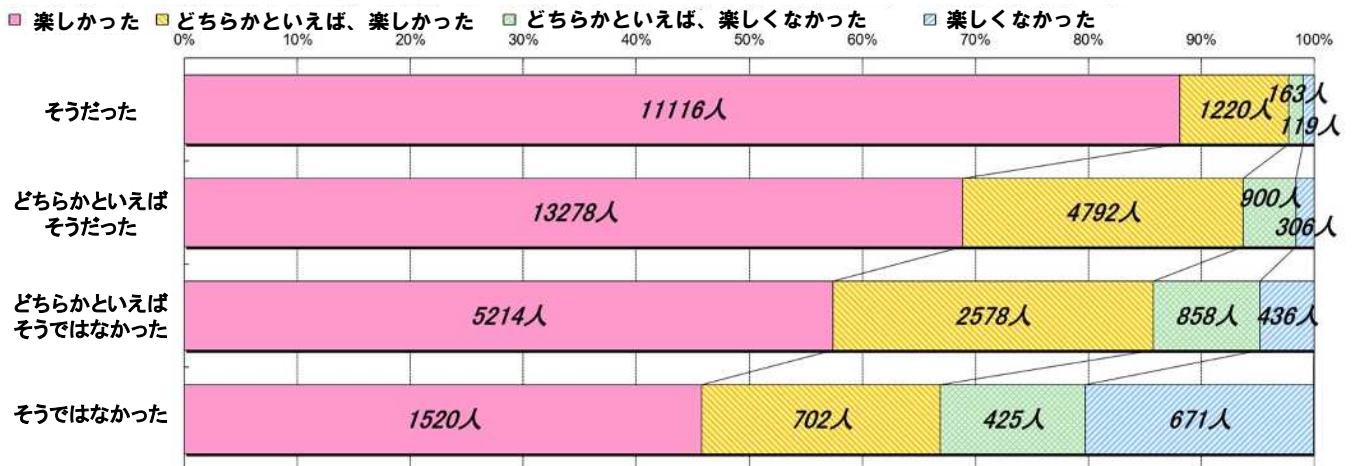
小学校5年



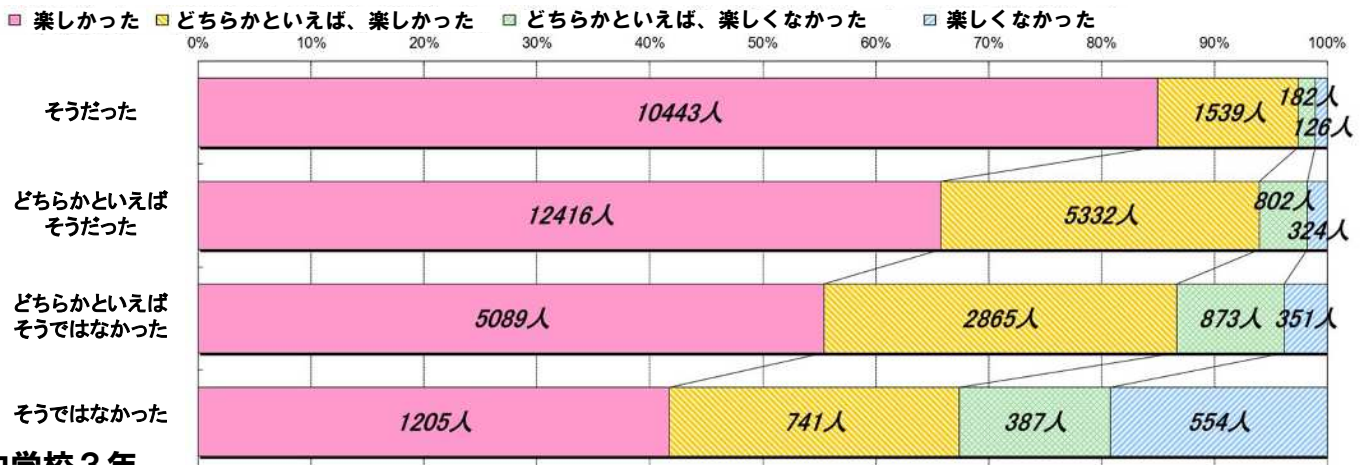
小学校6年



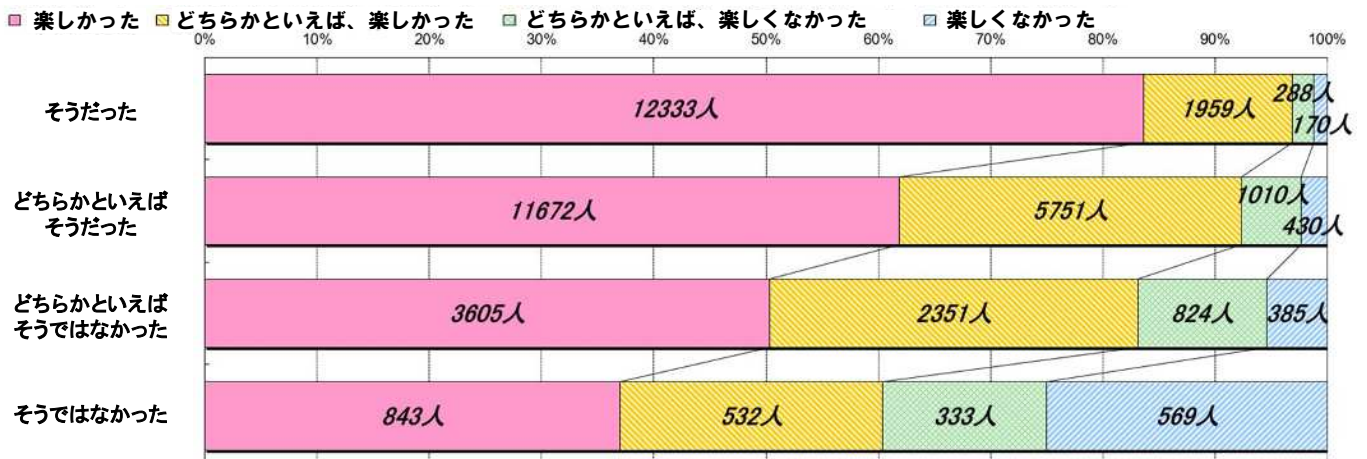
中学校1年



中学校2年



中学校3年



4 「教師の承認」と「各教科の学力」分析と傾向

【概要】

○ 教師に「よいところを認められた児童生徒」の学力は、どの学年教科でも高い傾向にある。

【先生方へのメッセージ】

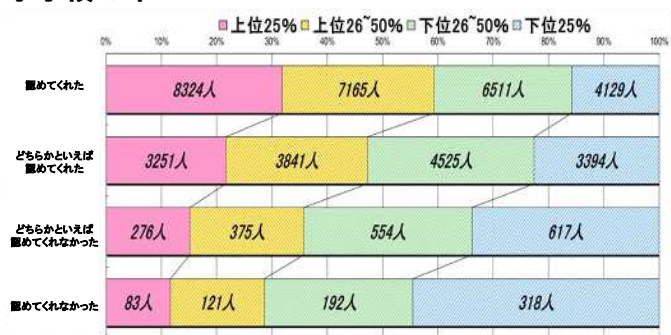
○ 「よいところ」「努力した成果」を『認め、ほめる』ことが、児童生徒一人一人の学力の向上につながります。

○ 本調査は一人一人の「学力の伸び」が分かる調査です。調査結果からよいところを探すとともに、課題に対しての個々の児童生徒の努力を見取り、認めてください。

横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

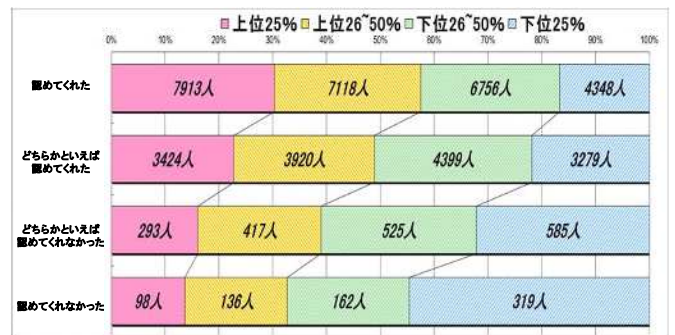
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

小学校4年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_算数

縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

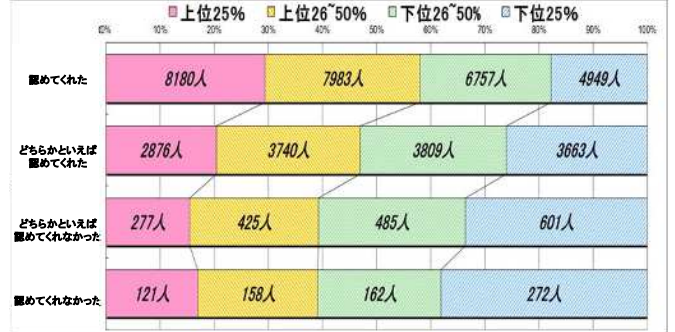
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

小学校5年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_算数

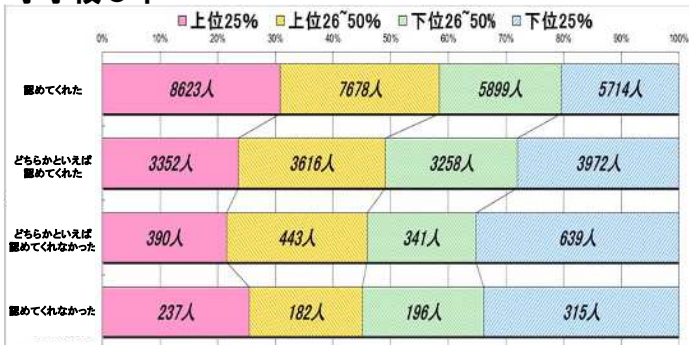
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_国語

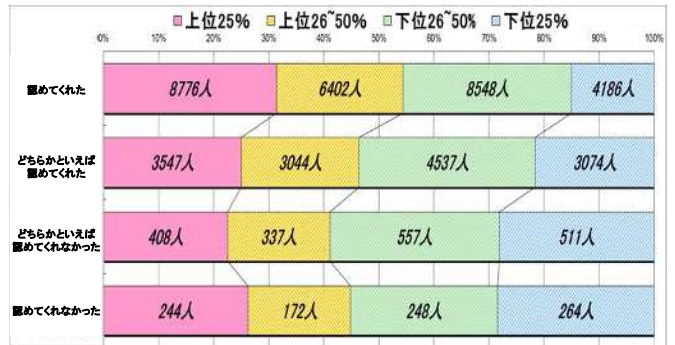
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

小学校6年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層_算数

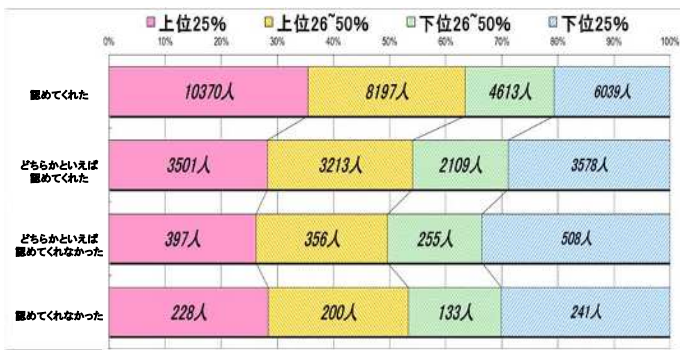
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 国語

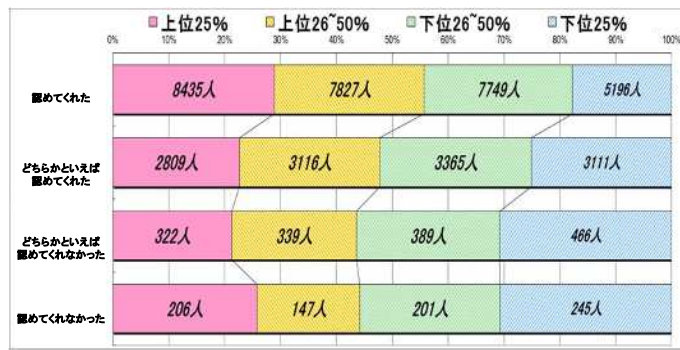
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

中学校 1 年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 算数

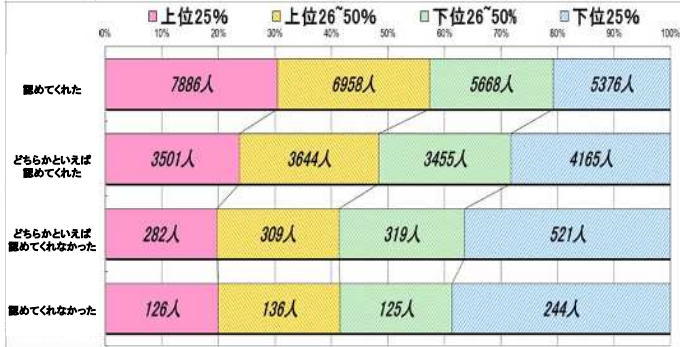
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 国語

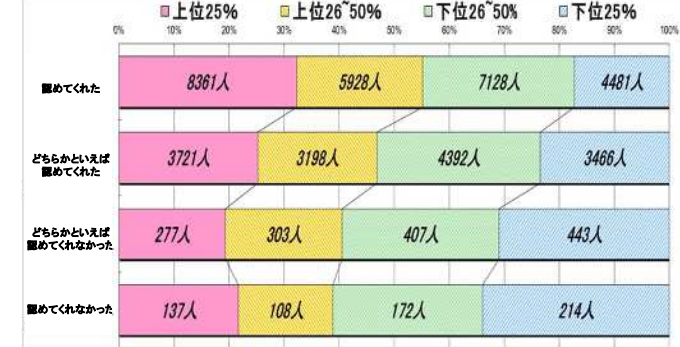
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

中学校 2 年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 数学

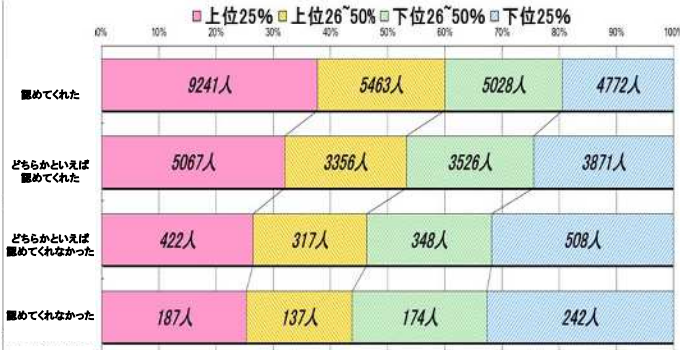
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 国語

縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

中学校 3 年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 数学

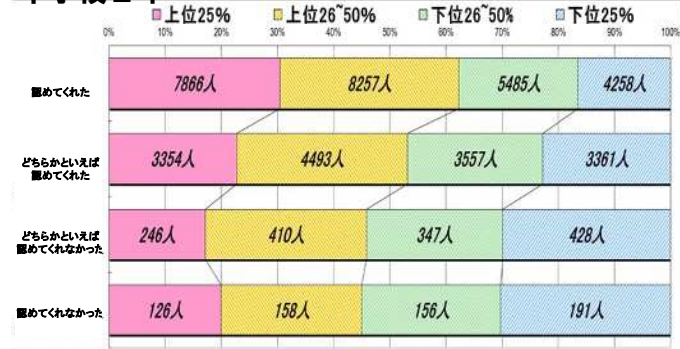
縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 英語

縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

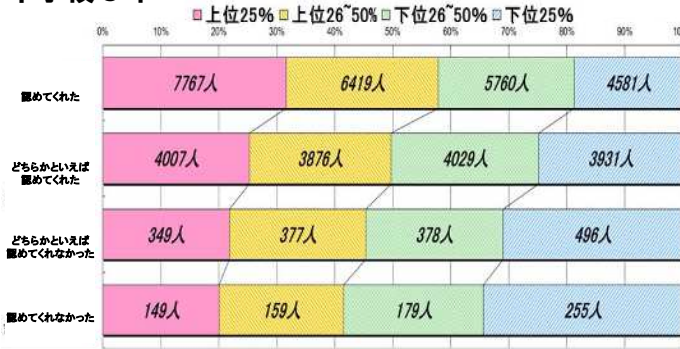
中学校 2 年



横軸カテゴリ⇒ 学力階層 英語

縦軸カテゴリ⇒ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。

中学校 3 年



5 「（1か月の）読書量」と学力の関係

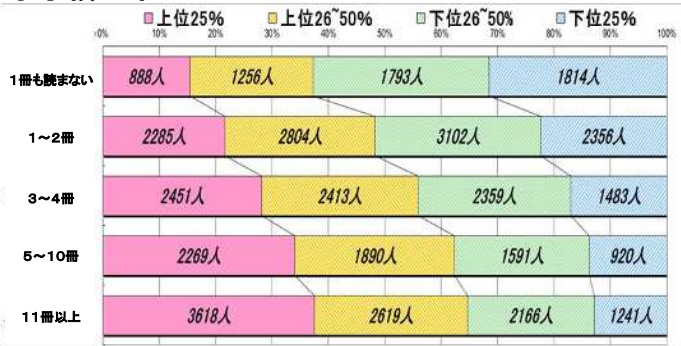
【概要】 ※国語を例に結果を示す。他教科(算数・数学、英語)でも国語ほどではないが同様の傾向がみられる。「1か月に読む本の冊数」の増化に伴い、学力の高い児童生徒の割合も増える傾向が見られた(国語、算数・数学、英語で同傾向)。一方、中学2～3年生では、1か月に読む本の冊数が「11冊以上」について、「5～10冊」と比較して、学力の高い児童生徒の割合が増える傾向は見られなかったこのことから、量と質のバランスにも注意する必要があると考えられる。

【先生方へのメッセージ】

- 児童生徒に読書を推奨し、語彙力を伸ばすとともに、様々な主人公と気持ちを重ねることで、心の葛藤や思い、その時の気持ちを理解する力を身に付けさせましょう。
- 読書を通じて他者と「対話」ができる授業を心がけることで、考えの多様性に気付くとともに、より深い「理解」につながっていきます。
- 「冊数を増やすこと」が、目的とならない指導を心がけましょう。

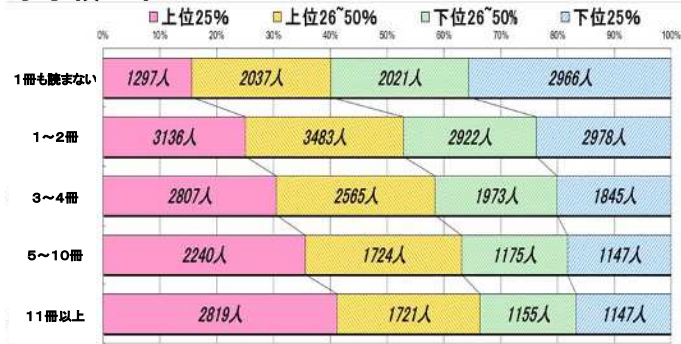
横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

小学校4年



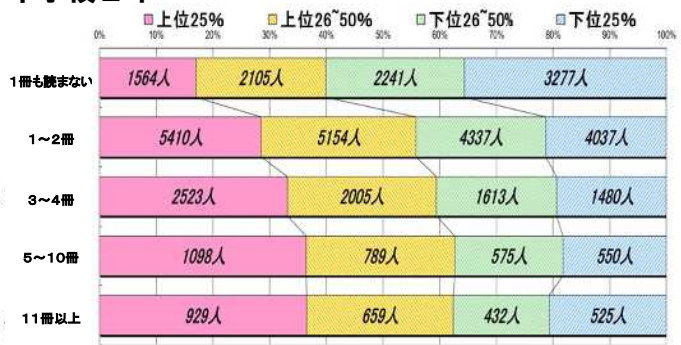
横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

小学校6年



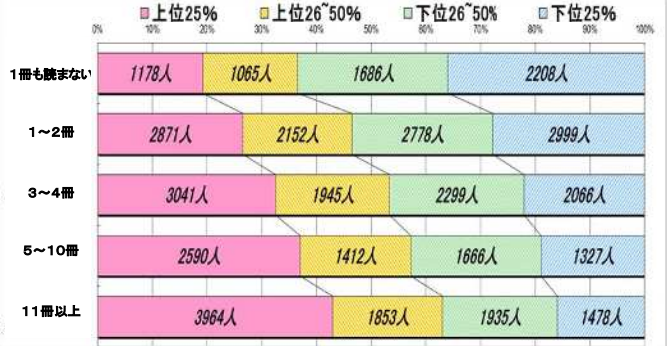
横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

中学校2年



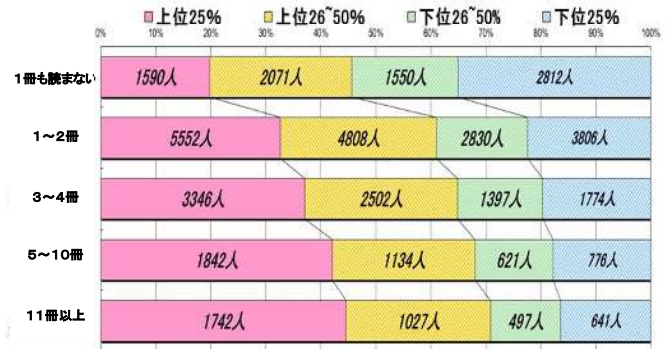
横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

小学校5年



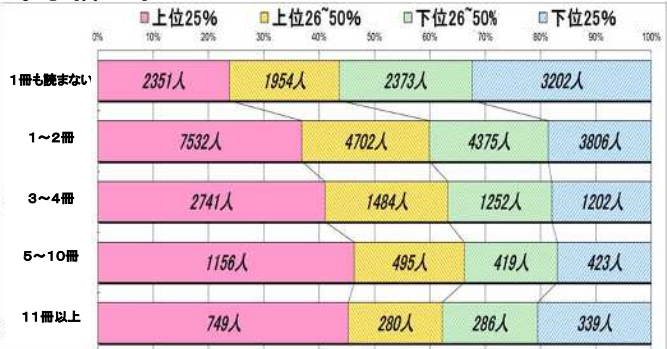
横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

中学校1年



横軸カテゴリー⇒ 学力階層_国語
 縦軸カテゴリー⇒ 1か月に何冊くらいの本を読みますか。

中学校3年



6 その他～ゲームや携帯電話の約束と学力～

【概要】

「テレビゲーム（コンピュータゲーム）をしたり、携帯電話（スマートフォン）を使ったりすることについて、家の人と約束を決めていますか」という質問に対して、「約束を決めている」と回答した児童生徒の学力は、「約束を決めていない」と回答した児童生徒に比べて高い傾向がある。

どの学年・教科においても同様の傾向が見られる。

【先生方へのメッセージ】

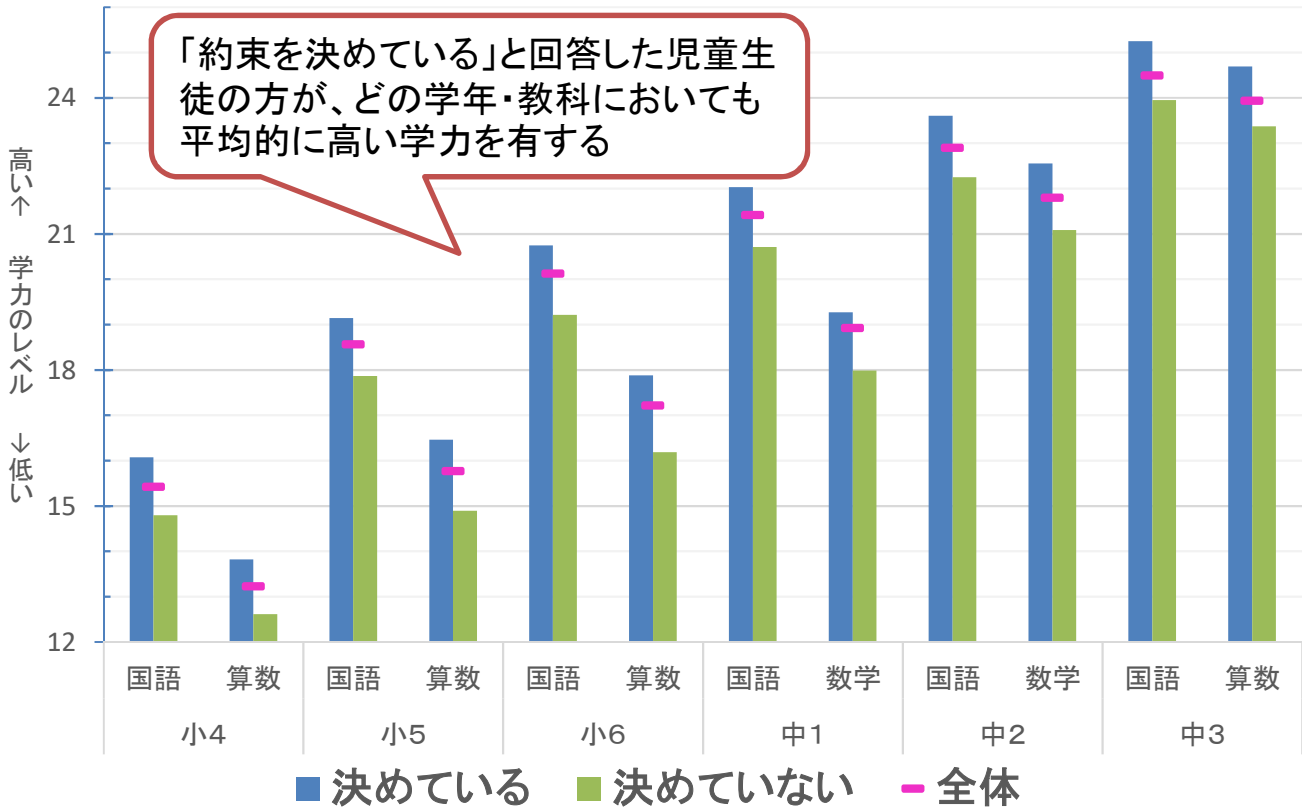
- 家庭においてテレビゲームや携帯電話（スマートフォン）等のルールを決めて使用するよう、保護者と連携することが大切です。
- また、学校から持ち帰って活用しているタブレット端末についても使用のルールを設定し、保護者と共有するなど、きめ細かな支援をお願いします。

テレビゲーム（コンピュータゲーム）をしたり、携帯電話（スマートフォン）を使ったりすることについて、家の人と約束を決めていますか

- ① どちらも決めている
- ② テレビゲームは決めている（携帯電話は決めていない）
- ③ テレビゲームは決めている（携帯電話は持っていない）
- ④ 携帯電話は決めている（テレビゲームは決めていない）
- ⑤ 携帯電話は決めている（テレビゲームは持っていない）
- ⑥ どちらも決めていない
- ⑦ どちらも持っていない

①③⑤・・・約束を決めている
 ②④⑥・・・約束を決めていない
 ⑦・・・その他（集計外）

テレビゲーム・携帯電話等の約束の設定と学力の関係



第7章

その他

令和6年度県学力・学習状況調査から1人1台端末を使用したCBTを（さいたま市を除く）県内全域で実施します。

CBTで実施することにより、児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の学力向上につなげたいと考えています。

1 埼玉県学力・学習状況調査のCBT化

児童生徒の学びの状況を詳細に把握し、先生方の指導方法の工夫・改善や児童生徒一人一人の更なる学力向上につなげていくことを目的として、令和6年度県学調からCBTで実施します。

(1) CBT化の主なメリット

- 正誤の状況に加えて解答時間等を分析することで、より細かく児童生徒のつまずきを把握した指導改善が可能
- 映像を活用した問題など、より実際の学習場面に即した出題が可能

県平均と比べて時間をかけた問題

| | | | | | |
|-------|--------------|-------|-----|-------|-------|
| 領域等 | 数と計算 | | | | |
| 問題概要 | 小数と整数のたし算をする | | | | |
| 見直し回数 | 7 | 正誤 | 正 | 県正答率 | 45.2% |
| かけた時間 | 5分12秒 | かけた時間 | 県平均 | 2分45秒 | |

(分析例)

正答しているが、何度も見直し時間をかけた問題は、児童生徒は解答に悩み、つまずいている可能性が考えられる。



個別指導が可能になり、学習支援が必要な児童生徒を早期に発見することにつながる



(2) 全県でのCBT化に向けた令和5年度の主な取組

ア 接続確認

目的：令和6年度県学調をCBTで安定的かつ円滑に行うため、通信環境を確認

調査対象：令和5年度県学調をPBTで実施した市町村

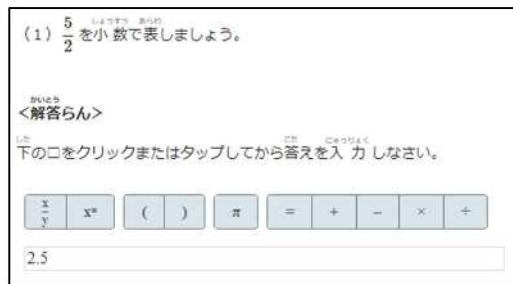
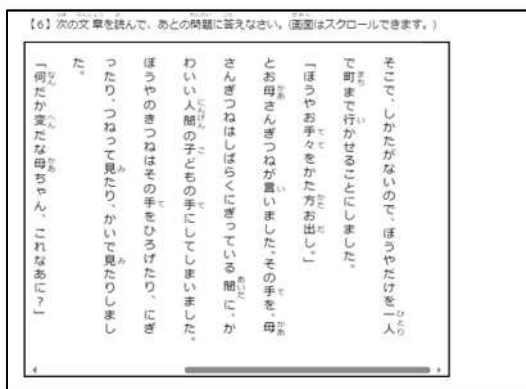
令和5年度県学調をCBTで実施した市町村で、実施方法を変更する予定の市町村

イ CBT体験

目的：児童生徒は個人番号の入力やCBTの操作等を確認

学校は問題の配信や解答データの提出状況の把握方法等を確認

体験対象：県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校、参加を希望する県立特別支援学校における、小学校3年生から中学校2年生の児童生徒



↑ 数式入力ツールやキーボード等で解答を入力する問題

← 文章をスクロールして読む問題

(3) 復習シートのCBT化

県ホームページで公開している埼玉県学力・学習状況調査の類似問題「復習シート」を令和5年度の問題から、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)に順次搭載します。各市町村が使用している学習eポータルで児童生徒に配信し、利用できるようになります。

MEXCBT

【1】 次の図に答えましょう。

おから部の角の大きさをくらべて、右がわのわくの半に、上から大きい順に並べなすべのえましよう。

選択しをクリックすると右の解答らんには並び替えができます。解答らんの中で、上下を入れ替えることもできます。

【1】 $\frac{5}{2}$ を小数で表しましょう。

<解答らん>

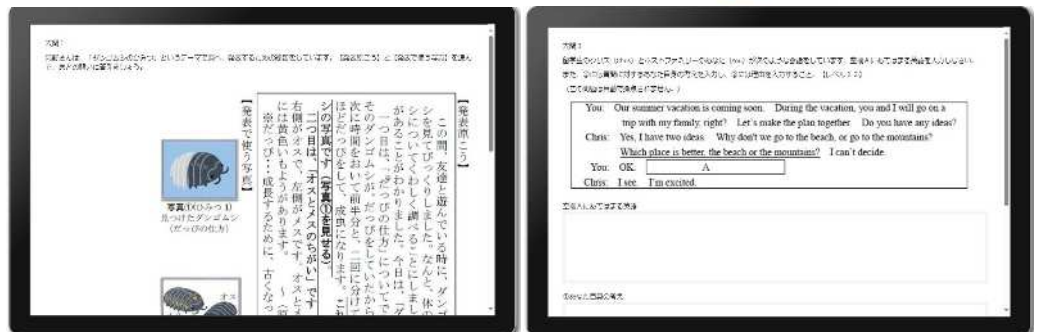
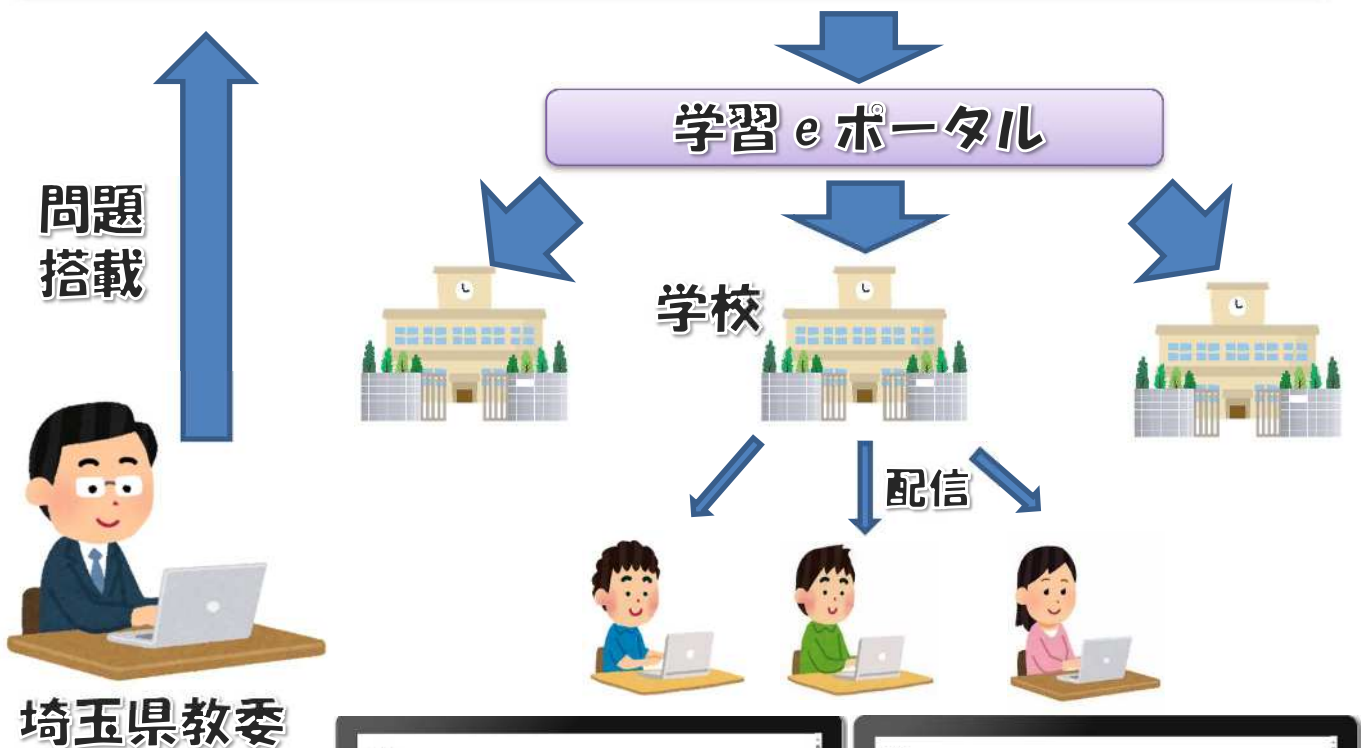
下の□をクリックまたはタップしてから答えを入力しなさい。

$\frac{1}{2}$ \times° () π = + - \times \div

2.5

答え方について(※本番では表示されません)

- 分数を入力するときは、 $\frac{\square}{\square}$ のボタンをクリックまたはタップしてから、分母、分子を半角で入力しましょう。
- ボタンが表示されても使わないこともあります。
- 答え方の説明は、真番問題には表示されません。体験問題でよく確認しましょう。



復習シートの活用頻度の向上

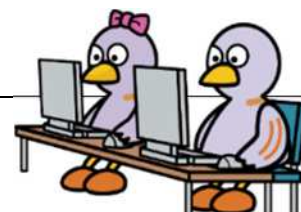
学力向上

参考資料

● C B T 化へ向けたこれまでの取組の概要

様々な課題に対応しながら、段階的に埼玉県学力・学習状況調査（県学調）の C B T 化に向けた取組を推進

| 年度 | 取組概要 |
|-------|--|
| 令和3年度 | <p>① 試行調査</p> <p>【目的】 3種のOS（Windows・Chrome・iPad）で、直接型・集約型のどちらの接続方法でも調査実施が可能なことの確認、児童生徒のICT活用能力の確認</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）、県立中学校1校</p> |
| 令和4年度 | <p>② 予備調査</p> <p>【目的】 「学力の伸び」を、C B T 化後も継続して測定する仕組みの構築</p> <p>【対象】 4市町（各小・中学校1校）</p> |
| | <p>③ 接続確認調査</p> <p>【目的】 県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校を対象とした、学校の通信環境（一斉接続）の確認</p> <p>【対象】 62市町村全校（約1,000校）及び県立中学校（1校）</p> |
| | <p>④ プレ調査</p> <p>【目的】 全面実施を見据えた実施手法や結果返却方法の実証</p> <p>【対象】 1市全校（小学校7校・中学校3校）</p> |
| 令和5年度 | <p>⑤ 県学調（本調査）</p> <p>・県内の市町村（さいたま市除く）がC B T か紙による調査（従来通り）を選択し実施 ※C B T（36市町村及び県立中学校1校）、紙による調査（26市町村）</p> |
| | <p>⑥ 接続確認</p> <p>【目的】 C B T を安定的かつ円滑に行うため、通信環境を確認</p> <p>【対象】 令和5年調査をP B T で実施した市町村及びC B T で実施した市町村の一部</p> |
| | <p>⑦ C B T 体験</p> <p>【目的】 C B T の操作等と問題配信・解答データの提出状況の把握方法等を確認</p> <p>【対象】 県内全市町村（さいたま市除く）の小・中学校等及び県立中学校、参加を希望する県立特別支援学校における、小学校3年生から中学校2年生の児童生徒</p> |
| 令和6年度 | <p>⑧ 県学調（本調査）</p> <p>・県立学校及び県内全ての市町村（さいたま市を除く）においてC B T で実施</p> |



埼玉県学力・学習状況調査キャッチフレーズ

タップで実感 アップでスマイル

埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>



埼玉県マスコット「コバトン」